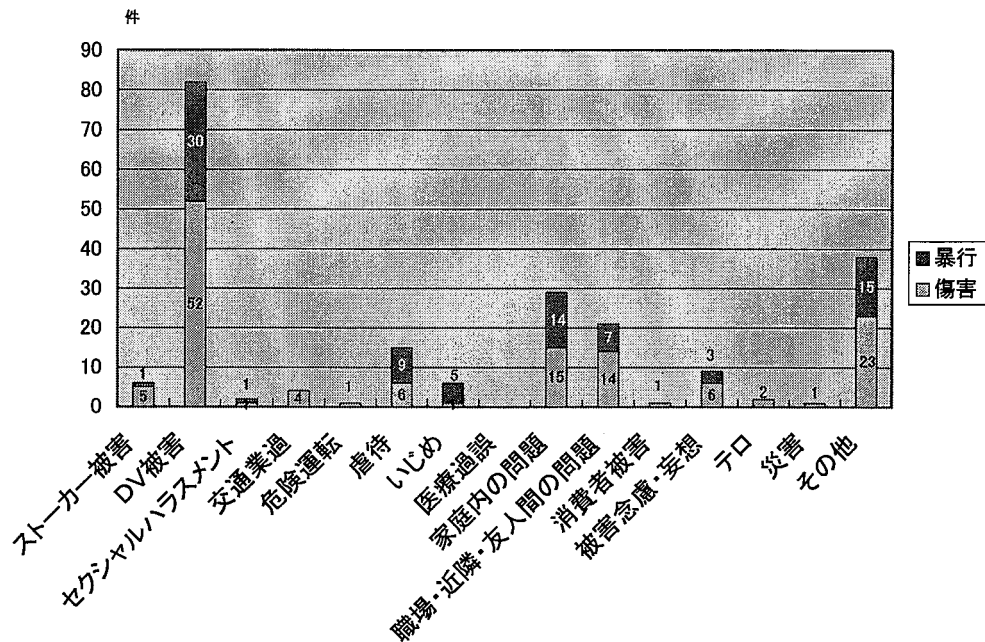


る。相談の主旨は継続7件のうち6件が心理的な相談に対して、新規相談では、心理的な相談9件、法律的相談23件、その他の相談14件、問い合わせ9件であった。

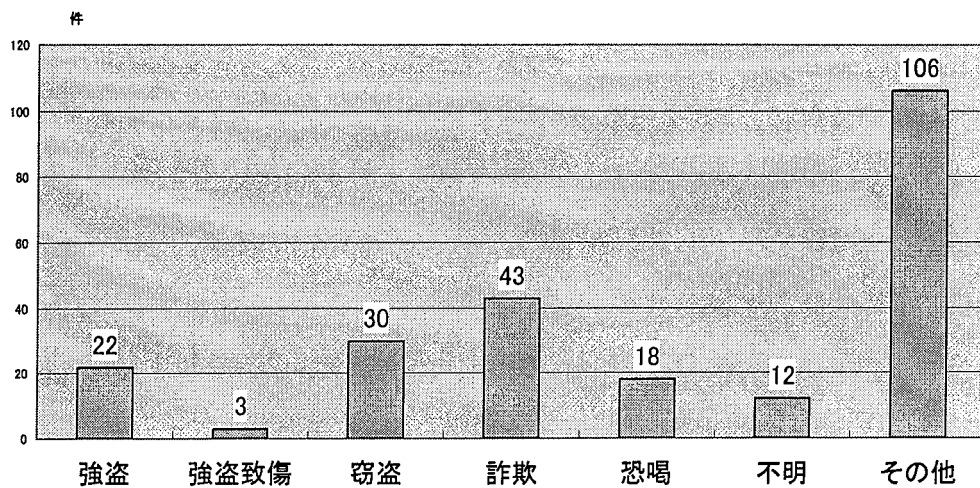
図8.暴行被害と傷害被害の被害態様



3. 財産被害

詐欺43件、窃盗30件、強盗22件、恐喝18件、不明12件、強盗致傷3件、その他106件となった（図9参照）。

図9. 財産被害



強盗被害は22件（新規11件、継続11件）で、相談主旨は新規に関しては心理

的相談3件、法律的相談1件、その他の相談2件、問い合わせ3件、その他2件となっている。継続相談に関しては心理的相談6件、法律的相談3件、その他の相談1件、問い合わせ0件、その他3件となり、若干心理的相談が多い。また、この継続相談の中には2ヶ月間に2回または、3回かけているケースが3件含まれている。

強盗致傷は3件で心理的相談であるが、中には恐喝被害を伴うものが1件含まれていた（未成年の少年が被害者、母親が相談者）。

窃盗被害は30件（新規23件、継続7件）で、相談主旨は新規では心理的相談が12件、法律的相談1件、その他の相談4件、問い合わせ5件である。継続相談7件のうち心理的な相談4件、問い合わせ1件、その他2件となっている。なお、継続件数の中には、相談の内容より、実際に被害があったかどうか疑わしく、「被害念慮・被害妄想」の項目にもチェックされていた事例が4件ある。

詐欺被害では、新規35件に対して、継続は8件である。新規では、心理的相談6件、法律的相談16件、その他の相談8件、問い合わせ5件である。継続8件では、心理的相談4件、法律的相談3件、その他の相談5件であった。

恐喝被害では、新規件数14件のうち相談主旨は心理的相談1件、法律相談9件、その他の相談4件、問い合わせ0件、その他1件。継続は4件（心理3件、その他1件）である。

財産被害の場合、財種別では「その他」とチェックされていたものが106件と多く、そのうち新規件数は92件、継続件数は14件となっている。「その他」の106件について、被害態様の主なものをあげると、消費者問題が36件とその3分の1を占め、次いで、その他の財産被害20件、職場・近隣・友人の問題19件、交通業過14件となっている。継続の14件の中には、2ヶ月間に5回相談してきた高齢者（78歳）の消費者被害の例がある（相談主旨は問い合わせである。）。

財産被害の被害態様で最も多いのが、消費者被害で70件、職場・近隣・友人間の問題38件、被害念慮・妄想19件、交通業過によるもの15件、家庭内の問題12件、DV被害、ストーカー被害各3件、などがこれに次ぐ（図10参照）。

表13. 財産被害における被害態様

財産被害	被害態様														総計	
	スカー被害	DV被害	セクシャルハラスメント	交通業過	危険運転	虐待	いじめ	医療過誤	家庭内の問題	職場・近隣・友人間の問題	消費者被害	被害念慮・妄想	テロ被害	災害被害		その他
強盗	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	5	8
強盗致傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
窃盗	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	1	12	0	0	13	30
詐欺	1	0	0	0	0	1	0	0	1	12	24	1	0	0	7	47
恐喝	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	6	0	0	0	5	16
不明	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	3	1	0	0	3	12
その他	1	1	0	14	1	0	0	0	6	19	36	5	0	1	20	104
合計	3	3	0	15	1	1	1	0	12	38	70	19	0	1	53	217

図10. 財産被害における被害態様

